月刊 しばうら

2026年 1月号

謹んで新年のご祝詞を申しあげます
旧年中は格別のご厚情にあずかり
心より御礼申し上げます
本年もなお一層のお引き立てを賜りますよう
お願い申し上げます

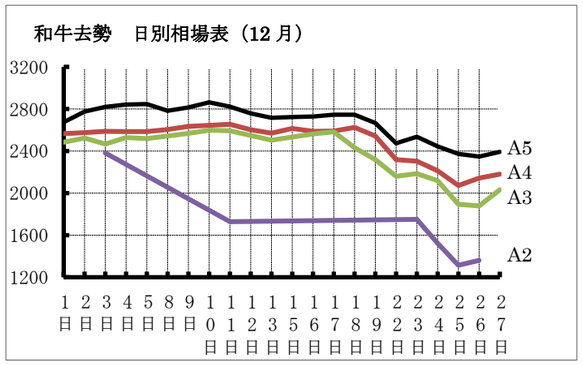
令和八年元日

牛肉営業部

＜12月の相場動向＞

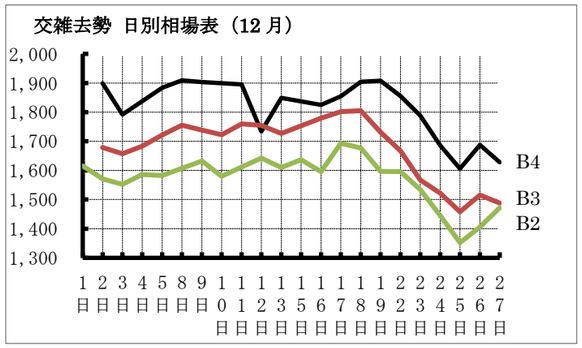
12月の相場動向は、和牛5等級はB.M.S.12が国内で敬遠されたため、また、和牛2等級は短角種の相場が極端に安かったことから、前年を下回る結果とはなったが、全体的には前月相場を上回る、例年どおりの展開であった。

年末年始の商戦は中国の渡航自粛要請による訪日客の減少もあり、高価格帯の動きは鈍かったが、全体的な売れ行きは予定数量を超える販売となり、軒並み好調だった。なかでも和牛に関しては、交雑種が高値で推移してきたことから、和牛肉需要拡大緊急対策事業を活用した仕入れに比重がシフトしたと考えられる。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,704円	-31円	98.9%	+30円	101.1%
A4	2,500円	+26円	101.1%	+37円	101.5%
A3	2,352円	+28円	101.2%	+36円	101.6%
A2	1,622円	-252円	86.6%	-406円	80.0%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,809円	+21円	101.2%	+66円	103.8%
B3	1,666円	+3円	100.2%	+32円	102.0%
B2	1,535円	+16円	101.1%	+11円	100.7%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	-	―	―	―	―
B2	1,228円	-115円	91.4.%	+13円	101.1%

＜1月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、11月の輸入量は前年同月比11.9%増の3万8,732tで、うち冷蔵品は11.1%減の1万2,137t、冷凍品は、前年同月比26.9%増の2万6,595tであった。

農畜産業振興機構は12月の牛肉輸入数量を、前年同月比4.8%増の4万1,100t（冷蔵14.3%減・冷凍18.0%増）と、1月は6.0%増の3万4,500t（冷蔵7.9%減・冷凍115.8%増）と予測している。冷蔵品は現地価格の高止まり等から、前年同月を下回ると予測している。冷凍品はトリミングの輸入量の増加が見込まれること等から、前年同月を上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		11月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,630	7,856	84.4%
	米国	4,264	4,653	91.6%
	その他	1,243	1,149	108.2%
	合計	12,137	13,658	88.9%
フローズン	豪州	13,958	9,041	154.4%
	米国	9,130	7,388	123.6%
	その他	3,507	4,533	77.4%
	合計	26,595	20,962	126.9%

出典：食肉速報　　単位：t

＜1月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による1月の出荷予測頭数は、全体で前年比94.9%の8万2,100頭で、品種別にみると和牛は7.5%減の3万8,500頭、交雑種は3.0%増の2万1,100頭、乳用種は8.0%減の2万2,000頭と予測している。

東京食肉市場の1月のと畜頭数は6,800頭（前年比104.9%）を予定しています。

＜1月の牛枝肉相場見通し＞

今年は年末年始の休市期間が長かった為、月前半は問屋の在庫補充によって底堅い相場展開になると考えられるが、成人の日の3連休後には、年末年始の消費疲労等から、相場は一旦落ち着くものと予想する。

今年も昨年同様に、1月は気温が低くなると予報されている。鍋物需要は底堅いと考えられるが、ブリスケなどの安い部材に需要が集中することが考えられ、交雑種の低位等級などの引き合いが強まるものと思われる。

牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,350～2,550	B4	1,650～1,750
A4	2,150～2,350	B3	1,550～1,650
A3	1,950～2,150	B2	1,400～1,550
A2	1,750～1,950		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,350		
B2	1,150～1,250		

豚肉営業部

11月の全国と畜頭数は137万1,437頭(前年同月比2.7%減)と前年を下回った。また、11月の豚肉通関数量は6万5,353t(前年同月比16.5%減)と前年を大幅に下回り、前月比では23.1%減となった。内訳はチルドが3万816t(1.2%増)、フローズンは3万4,537t(27.8%減)となった。

2024 - 2025年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
6	68,598	83,731	24,109	222,274	68,453	75,606
7	69,871	82,687	22,399	219,105	71,374	84,255
8	63,753	74,022	21,855	216,178	64,151	76,949
9	70,991	76,220	21,545	213,175	71,134	79,223
10	81,313	84,875	21,943	209,457	80,789	88,593
11	76,416	65,268	22,199	196,931	75,962	77,794
比	98%	83%	104%	101%	97%	91%

比：最終月の前年同期比　出典：農畜産業振興機構　単位：t

11月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	10,028	83.4%	デンマーク	3,389	68.5%
カナダ	17,332	110.8%	スペイン	7,612	60.3%
メキシコ	3,457	124.6%	メキシコ	3,665	73.5%
			アメリカ	3,389	68.5%
			カナダ	1,753	37.2%
合計	30,816	101.2%		34,537	72.2%

単位：t

＜12月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	70,100	583	557	1,056
2日	69,700	605	578	1,149
3日	70,300	601	570	926
4日	70,100	584	556	955
5日	67,800	556	536	1,168
8日	69,400	558	543	1,045
9日	67,600	582	576	1,089
平均	69,286/日			1,055/日

北関東では寒波の影響から積雪になるなど冷え込みが強まり鍋物需要がさらに強まった。年末に向けた手当てもみられ始め、末端の動きも良化傾向となり、相場も550円～600円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	71,600	603	584	891
11日	71,100	607	581	1,004
12日	70,800	638	614	1,028
15日	71,700	637	602	1,023
16日	71,700	665	658	1,088
17日	73,100	688	665	873
18日	70,800	640	601	1,041
平均	71,543/日			993/日

全国的に出荷頭数は堅調に推移し7万頭を上回る日が続いた。忘年会などの宴会シーズンもピークを迎え、末端の荷動きもスライス系を中心に引き合いが強く、年末に向けた手当てにより更に強まったことで相場は600円台の安定した高値相場となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
19日	73,000	641	603	1,045
20日	―	568	544	1,093
22日	75,800	550	525	1,092
23日	75,600	563	535	996
24日	75,600	534	501	887
25日	73,800	474	450	922
26日	54,400	467	451	1,025
27日	―	475	468	685
平均	71,367/日			968/日

相場は20日の臨時開市日に上物が前日比-73円と急落した。そのまま反発することなく、最終日の27日は上物475円で引けとなった。前年を下回ったものの、月間平均では過去10年間で2番目の高値相場となった。

＜1月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和8年1月の肉豚出荷予測では133万8,000頭（前年比95.3%）と予測している。当市場の1月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約900頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万5,900t（同81.9%）、内訳は冷蔵輸入量が3万3,000t（同102.9%）、冷凍輸入量は3万2,900t（同67.9%）と予測している。

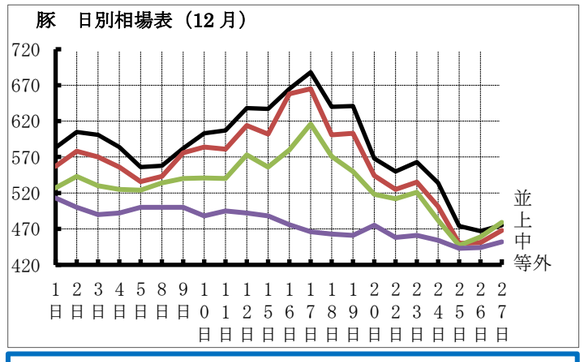
冷蔵品輸入量は、主要輸入国であるカナダ産とメキシコ産の増加が見込まれること等から、前年同月をわずかに上回ると予測している。また、3カ月平均では前年同期をやや上回ると予測している。

冷凍品輸入量は国内在庫が高水準にあり、輸入量が減少傾向にあったが、アフリカ豚熱発生によるスペイン産の輸入一時停止措置や、12月には同国産の一部で通関遅延が生じたほか、1月以降には直接的な影響も見込まれることから、前年同月を大幅に下回ると予測する。同じく、3カ月平均でも前年同期を大幅に下回ると予想している。

例年1月は、年末年始の出費による反動で需要が鈍る時期となる。学校給食の再開によって需要は中部位からスソ物へシフトする流れになるが、バラは引き続き鍋物需要で堅調な引き合いが見込まれ、ロースは輸入品との競合が予想される。また、昨年の相場高の影響により中間流通では凍結玉を確保できず、在庫がタイトな状況となっていることから、相場の下支え要因になることも予想される。

供給面では、全国的に気温は平年並みと予報されており、寒波等による出荷への影響は少ないとみられることから、出荷頭数は比較的安定すると考えられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は550円前後、中物平均価格530円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127